

- 29: 105-53.
- 国立社会保障・人口問題研究所, 2014, 『第5回全国家庭動向調査 結果の概要』 ([http://www.ipss.go.jp/ps-katei/j/NSFJ5/Kohyo/NSFJ5\\_gaiyo.pdf](http://www.ipss.go.jp/ps-katei/j/NSFJ5/Kohyo/NSFJ5_gaiyo.pdf)).
- 小谷敏編, 1993, 『若者論を読む』 世界思想社.
- 轡田竜蔵, 2011, 「過剰包摂される地元志向の若者たち—地方大学出身者の比較事例分析」樋口明彦・上村泰裕・平塚真樹編『若者問題と教育・雇用・社会保障—東アジアと周縁から考える』法政大学出版局: 183-212.
- 黒沼克史, 1996, 『援助交際—女子中高生の危険な放課後』 文藝春秋.
- 牧野智和, 2012, 『自己啓発の時代—自己の文化社会的探求』 勁草書房.
- 松下慶太, 2012, 『デジタル・ネイティブとソーシャルメディア—若者が生み出す新たなコミュニケーション』 教育評論社.
- 松山大学社会調査室 2006, 『若者の生活と文化—愛媛県松山市, 東京都杉並区二地点比較調査』.
- 松山大学社会調査室 2010, 『若者の生活と文化—愛媛県松山市, 東京都杉並区二地点比較調査』.
- 三村忠史・倉又俊夫・NHK「デジタルネイティブ」取材班, 2009, 『デジタルネイティブ—次代を変える若者たちの肖像』 日本放送出版協会.
- 見田宗介, 1979, 「まなごしの地獄」『現代社会の社会意識』 弘文堂.
- 宮台真司, 1987, 「現代大学生の消費生活の意味するもの—意識調査をもとにして」『社会心理学評論』 第6号.
- 宮台真司ほか, 1992, 『高度技術社会における若者の対人関係の変容』(平成3年度科学研究費補助金: 重点領域研究『高度技術社会のパースペクティブ』研究成果報告書).
- 宮台真司, 1994, 『制服少女たちの選択』 講談社.
- 宮台真司, 2010, 『システムの社会理論—宮台真司初期思考集成』 勁草書房.
- 宮台真司・石原英樹・大塚明子, 1993, 『サブカルチャー 神話解体』 バルコ出版.
- 三浦展, 2004, 『ファスト風土化する日本』 洋泉社.
- 三浦展, 2010, 『ニッポン若者論—よさこい, キャバクラ, 地元志向』 筑摩書房.
- 中澤智恵, 2007, 「性教育・性情報源と性知識および避妊に対する態度形成」, 『「若者の性」白書—第6回 青少年の性行動全国調査報告—』 小学館: 145-74.
- 内閣府政策統括官(総合企画調整担当)編, 2001, 『日本の青少年の生活と意識—青少年の生活と意識に関する調査報告書第2回調査』.
- 内閣府政策統括官, 2004, 『世界の青年との比較からみた日本の青年—第7回世界青年意識調査報告書』.
- 内閣府政策統括官, 2009, 「第8回 世界青年意識調査」(<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth8/html/mokuji.html>).
- 内閣府政策統括官, 2014, 「平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」([http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf_index.html)).
- 内閣府, 2015, 『平成27年度版 自殺対策白書』(<http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/whitepaper/w-2015/pdf/honbun/index.html>).
- 中西新太郎, 2004, 『若者たちに何が起っているのか』 花伝社.
- 中西新太郎, 2012, 『「問題」としての青少年—現代日本の“文化-社会”構造』 大月書店.
- 難波功士, 2007, 『族の系譜学』 青弓社.
- 日本経済新聞社編, 2005, 『ジェネレーション Y—日本を変える新たな世代』 日本経済新聞社.
- 尾嶋史章編著, 2001, 『現代高校生の計量社会学—進路・生活・世代』 ミネルヴァ書房.
- 小此木啓吾, 2000, 『「ケータイ・ネット人間」の精神分析—少年も大人も引きこもりの時代』 飛鳥新社.
- 大倉韻, 2015, 「現代若者文化の位相と地域性(7) ACG文化の一般化と友人関係」第88回日本社会学会大会報告原稿.
- Riesman, D., 1961, *The lonely crowd: a study of the changing American character*, New Haven: Yale University Press (=加藤秀俊訳, 1964, 『孤独な群衆』 みすず書房).
- ロジャー・グッドマン/井本由紀/トゥーッカ・トイボネン編著, 2013, 『若者問題の社会学—視線と射程』 明石書店.
- 貞包英之, 2015, 『地方都市を考える—「消費社会」の先端から』 花伝社.
- 阪口祐介, 2016, 「若者におけるメディアと生活の相

- 互関係の変容—2002年と2012年の時点間比較」藤村正之・浅野智彦・羽淵一代編『現代若者の幸福—不安感社会を生きる』恒星社厚生閣：169-190.
- 斎藤学, 1996, 『アダルト・チルドレンと家族—心のなかの子どもを癒す』学陽書房.
- 斎藤環, 1998, 『社会的ひきこもり—終わらない思春期』PHP 研究所.
- SEALD's 編, 2016, 『日本×香港×台湾 若者はあきらめない』太田出版.
- 島田裕巳, 1992, 『信じやすい心—若者が新々宗教に走る理由』PHP 研究所.
- 総合研究開発機構編, 1983a, 『若者の都市—大都市に生きる若者の意識と行動』学陽書房.
- 総合研究開発機構, 1983b, 『地方都市青年層のライフスタイルと文化行動』総合研究開発機構.
- 総務庁青少年対策本部編, 1995, 『青少年の意識の変化に関する基礎的研究—「青少年の連帯感などに関する調査」第1回～第5回の総括』.
- 総務庁青少年対策本部編, 1997, 『日本の青少年の生活と意識—青少年の生活と意識に関する調査報告書』.
- 高橋勇悦監修, 川崎賢一・芳賀学・小川博司編, 1995, 『都市青年の意識と行動—若者たちの東京・神戸90's分析編』恒星社厚生閣.
- 谷本奈穂, 2008, 『恋愛の社会学—「遊び」とロマンティック・ラブの変容』青弓社.
- Tapscott, D., 2009, *Grown Up Digital: How the Net Generation is Changing Your World*, McGraw-Hill (=栗原潔訳, 2009, 『デジタルネイティブが世界を変える』翔泳社).
- 太郎丸博編, 2006, 『フリーターとニートの社会学』世界思想社.
- 寺地幹人・小川豊武, 2013, 「若年層の政治関心と趣味—「趣味活動」と「趣味嗜好」という観点から」『ソシオロゴス』37: 132-53.
- 富田英典・藤村正之編, 1999, 『みんなぼっちの世界』恒星社厚生閣.
- 友枝敏雄編, 2015, 『リスク社会を生きる若者たち—高校生の意識調査から』大阪大学出版会.
- 辻泉, 2010, 「地方の若者・都市の若者—愛媛県松山市・東京都杉並区2地点比較調査の結果から」『松山大学論集』松山大学総合研究所, 22 [1]: 443-465.
- 辻泉・大倉韻・野村勇人, 2016, 「若者文化20年間の「計量的モノグラフ」—「遠隔=社会, 対人性, 個人性」三領域の視点から」『紀要社会学・社会情報学』中央大学文学部, 26: 43-79.
- Winograd, M., Hais, M.D., 2008, *Millennial Makeover: MySpace, YouTube, and the Future of American Politics*, Rutgers University Press (=横江公美監訳, 2011『アメリカを変えたM世代—SNS・Youtube・政治再編』岩波書店).
- 山田昌弘, 2004, 『希望格差社会—「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房.

#### 参考資料

- ブレイディみかこ, 2016, 「英 EU 離脱に憤る若者たち」『ニューズウィーク日本版』(<http://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2016/06/eu-28.php>, 最終アクセス日 2016年9月22日).
- 保坂展人, 2016, 「バーニー・サンダースの勢いが止まらない 若者の熱い支持は世界を変えるか」『THE HUFFINGTON POST』([http://www.huffingtonpost.jp/nobuto-hosaka/barnie-sanders\\_b\\_9666856.html](http://www.huffingtonpost.jp/nobuto-hosaka/barnie-sanders_b_9666856.html), 最終アクセス日 2016年9月22日).

